

# 宇都宮市【栃木県】 歴史文化基本構想を活用した 観光拠点づくり事業



■協議会メンバー…  
ZOO法人宇都宮まちづくり推進  
機構／宇都宮観光コンベンション  
協会／宇都宮市文化財ボランティア  
協会／宇都宮市文化財ボランティア  
連絡協議会／宇都宮市／宇都宮  
市教育委員会

■構想策定年度…  
平成30年1月  
■補助事業期間…  
平成30年4月22日  
平成31年3月29日

## 歴史文化基本構想の概要

宇都宮市は、二荒山神社の門前町・宇都宮城の城下町として栄え、大谷石採石産業の営みによる独特な景観、農村部に残る天棚や屋台など、多様な文化が息づいている。宇都宮市歴史文化基本構想策定の中で見いだされた、本市の特徴を魅力的な形でわかりやすく伝えるために「うつのみやの歴史を紐解く8（エイト）ストーリー」として8つのストーリーを設定し、関連文化財を整理した。

### 観光拠点形成の方向性

- ・宇都宮を特色付ける歴史文化資源の魅力向上
- ・歴史文化資源を結び付けたストーリーにより観光客の周遊性を高める

### 観光に関する課題

- ・文化財展示施設の魅力向上と周辺文化財群との回遊性が不十分
- ・市民や観光客にわかりやすいPRやコンテンツが不十分

## 事業概要

### 関連文化財群PR及び回遊促進パンフレットの制作①

宇都宮市歴史文化基本構想において策定した、宇都宮市の歴史文化の特性を8つのストーリーにまとめた「うつのみやの歴史を紐解く8ストーリー」をわかりやすく紹介するため、8ストーリーの総合パンフレットとして、「うつのみや今昔ものがたり」を作成した。



情報発信

■KPI 宇都宮市への入込観光客数：  
14,830,100人(H29)→15,310,388人(R2)

### 関連文化財群PR及び回遊促進パンフレットの制作②

「うつのみや今昔ものがたり」では、8ストーリーについて、各ストーリーごとに解説ページを作成している。ストーリーページの上段には各ストーリーを象徴する大きな画像、中段には解説文、下段には解説文で紹介した文化財等を紹介している。8ストーリーのうち4つのストーリーでは、親しみやすい手書きイラストマップを作成し、パンフレットを手にした方が回遊しやすく、関連文化財の理解が深まる内容とした。



情報発信

■KPI 宇都宮市への入込観光客数：  
14,830,100人(H29)→15,310,388人(R2)

## 成果

#### ①歴史文化資源の魅力を発信

イラストマップや写真を使い8ストーリーをわかりやすく伝えることができ、まち歩きにも使用できる『うつのみや今昔ものがたり』を作成し、ストーリー毎のまち歩きができるようになった。

#### ②市の歴史文化への理解促進

8ストーリーを素材とした企画展を開催することにより、市の成り立ち等、市民が歴史文化に関する理解を深める機会を提供することができた。

# 下野市【栃木県】 歴史文化基本構想を活用した 観光拠点づくり事業



■ 協議会メンバー  
下野市観光協会 / 株式会社道の  
駅しもつけ / 下野薬師寺ボラン  
ティアの会 / 児山城址守り隊 /  
下野市文化財保護審議会 / 下野  
市小中学校長会 / 下野市の関係  
部局

■ 構想策定年度…  
平成二十八年一月  
■ 補助事業期間…  
平成三十年四月二日  
平成三十一年三月二十九日

## 歴史文化基本構想の概要

下野市は栃木県内で最小の市だが、500以上の遺跡と106の指定文化財が存在している。これらは、当地が各時代を超え「北・南と東・西を結ぶ一大交通拠点」として、ヒトとモノの流れがあったことを示している。そこで、古代から近世までの交流や交通を主眼として、各時代ごとに関連文化財群を設定し、これらの文化財の保存活用を推進している。

### 観光拠点形成の方向性

- ・文化財の保存・活用を前提とした歴史まちづくりの推進
- ・「東の飛鳥」として文化財の広域的な活用を図る

### 観光に関する課題

- ・各史跡等での個々の取組みはあるが連携した取組みがない
- ・観光客が周遊して文化財を見学することが少ない
- ・市内全域を案内するガイドの不足

## 事業概要

### VRにより日光街道を復元

市内には江戸時代に整備された日光街道が南北に縦断し、宿場や一里塚が整備されたが、後年の開発により宿場等の街並みはほとんど残されていない。そのため、市内に所在した宿場や一里塚をVRにより復元し、当時の街並みを体感できるよう公開を行った。

**KPI** 資料館等入館者数：27,000人(H28)⇒32,000人(R1)

情報発信



### 文化財周遊アプリの導入

観光客が市内の文化財を周遊して見学することが少ないことから、日光街道復元VRを活用して、市内の日光街道に関連する文化財の周遊を促すためのアプリを導入した。見学者が利用しやすいよう、日光街道に関連する文化財や休憩場所等の周辺スポットについても表示した。

**KPI** 資料館等入館者数：27,000人(H28)⇒32,000人(R1)

情報発信



### 文化財観光ガイド養成講座を実施

特定の史跡を対象としたガイド組織は存在するが、市内全域の文化財を対象としたガイドがないため、市内の文化財を網羅的にガイドできるよう、ガイドの養成講座を実施した。講座は受講生が自主性を持てるよう、講座形式のみでなくワークショップ形式でも実施した。

**KPI** 観光文化財ガイド登録者数：0人(H28) ⇒30人(R1)

人材育成



### 歴史文化遺産カードで事業を発信

「東の飛鳥」として文化財の広域的な活用を発信するために、資料館来訪者向けに歴史文化遺産カードを作成した。日光街道復元VR画像を活用し、表には宿場や一里塚等の復元VR画像、裏面には文化財周遊アプリの利用を促すQRコードを掲載した。

**KPI** 文化財関連イベント参加者数：2,000人(H28) ⇒3,000人(R1)

普及啓発



## 成果

### ① 文化財等の見学者の増加

過去に制作した下野薬師寺の復元VRアプリとともに、古墳及び日光街道復元VRアプリの公開により、文化財の見学者が増加した。アプリのガイド機能により、市内の文化財を巡る人も見られるようになった。

### ② 文化財への関心の高まり

文化財観光ガイド養成講座を実施したところ、定員を上回る市民等が参加した。講座実施後もガイドとして活動を継続する方が30名近くおり、今後継続して講座を実施することにより、多くの方の参加が見込まれる。

# 益子町【栃木県】 歴史文化基本構想を活用した 観光拠点づくり事業



■協議会メンバー…  
益子町文化財保護審議会／益子町商工会／益子町観光協会／益子町獅子舞保存会

■構想策定年度…  
平成二九年三月  
■補助事業期間…  
平成三〇年四月二日  
平成三一年三月二九日

## 歴史文化基本構想の概要

益子町の文化財を将来にわたりの確に保存・活用していく上で「引き出す」「まもる」「広める」「活かす」を基本方針とし、歴史文化保存活用地区、拠点資産などを中心に文化財の有形無形、指定未指定を問わず、面的に保存・活用の方策を実施していく。

### 観光拠点形成の方向性

- ・新まちこ未来計画に基づく地域資源の魅力向上と面的な整備
- ・県内外、国内外の交流人口の増加
- ・周遊を楽しめるような仕組みづくり

### 観光に関する課題

- ・文化財等の案内板・説明板の不足
- ・周遊ルートにおけるトイレの整備
- ・文化・観光イベントの連携
- ・文化財関係の講座やPR、人材不足

## 事業概要

### 文化財情報発信推進事業（案内板の整備）

文化財を訪ねる方がスムーズに文化財にたどりつけ、町の歴史や文化を深く理解し、魅力を感じてもらおうことができるため、案内板を設置した。既存の案内板とデザインを統一し、平成30年度は七井地区7カ所に設置した。

■KPI 入込観光客数：210万人（H28）→250万人（R2）

情報  
発信



### 外国人留学生モニターツアー

文化財や観光施設を回遊してもらい、整備計画の基礎調査・情報収集をするため、外国人留学生モニターツアーを実施した。平成30年度は2回実施し、欧米の学生6名とアジア系の学生6名が参加した。一泊二日で益子・上大羽地区をめぐる。

■KPI 外国人観光客宿泊者数：640人（H28）→700人（R2）

普及  
啓発



### 益子町文化財ガイド養成講座

現在も組織されている観光ボランティアのスキルアップと新規ガイド養成を図るため、養成講座を実施した。平成30年度は町外から講師を招いて3回実施し、益子町の縄文時代、古墳時代、山車・屋台について学んだ。

■KPI 文化観光ガイドの利用数：947人（H28）→1,200人（R2）

人材  
育成



### 七井地区周遊環境整備事業

七井地区の周遊を促すためにトイレの整備を行った。小宅古墳群（県指定史跡）を有する亀岡八幡宮の駐車場に設置した。ここは簡易トイレが1基設置されていたため、周遊を促すことが困難であった。

■KPI 入込観光客数：210万人（H28）→250万人（R2）

活用  
整備



## 成果

### ① 小宅古墳群への来場者が増加

七井地区の拠点資産のひとつである小宅古墳群。案内板の設置やトイレの整備を行ったことで来場者が増加し、町全体の入込観光客数が増加した大きな要因となった。

### ② ガイド養成講座の参加者数の増加

歴史講座を兼ねて実施した文化財ガイド養成講座。参加者の平均が前年度から10人以上増加した。ガイドのスキルアップにもつながり、2020年のガイド利用者目標数1,200人（H29は900人）の達成につなげたい。



文化庁

関東地方

# 銚子市【千葉県】 歴史文化基本構想を活用した 観光拠点づくり事業



■協議会メンバー…  
銚子市／銚子市教育委員会／銚子市観光協会／銚子市U・M・O準備室／犬吠埼ブランドン会／余山貝塚美化の会／高田川と共生する会／銚子神輿連合会／登録文化財所有者

■構想策定年度…  
平成三〇年三月  
■補助事業期間…  
平成三〇年四月二日  
平成三一年三月三十一日

## 歴史文化基本構想の概要

銚子市の個性や魅力を伝える歴史文化と文化資産を「銚子資産」として位置付け、後世に確実に継承していくことを目指す。また、構想の目的である「知れば、知るほど好きになる、伝えよう銚子」の実現を目指し、知る機会の提供や充実を図り、地域の良さを発信できる市民を増やしながら、市民が郷土に対する誇りを持つてるようにする。さらに、市民団体等との協働、関係機関との連携により銚子資産を観光振興や地域活性化にも活用していく。

### 観光拠点形成の方向性

- ・銚子資産の周知と魅力向上
- ・「銚子歴史ものがたり」等に基づいた面としての整備
- ・歴史文化に触れる旅の素材の提供

### 観光に関する課題

- ・情報発信力の向上
- ・体験プランの造成
- ・周遊に必要な施設や便益施設の整備
- ・インバウンド対応の整備不足

## 事業概要

### 「銚子時間」に基づく情報発信

歴史文化保存活用区域を紹介し、まち歩きにつなげていくためにWEBサイト用のコンテンツとパンフレットを作成した。作成にあたり、銚子資産を活かした事業展開を実施するため「銚子時間-三つの時間が重なり合う町-」という基本コンセプトを設定して、情報発信に取組んだ。

■KPI 市内宿泊者数：217,000人（H29）→244,000人（R2）

情報  
発信



### 犬吠埼灯台乙女養成講座の開催

市民が本市の代表的な観光スポットである犬吠埼灯台をさまざまな切り口で学び、さらに本市の歴史文化を総合的に学ぶことで、観光客などに対し、市内を周遊するための情報を提供できるガイドとしての役割を担う人材となることを目指すためにガイド養成講座を開催した。

■KPI 文化観光ガイドの登録数：0人（H29）→30人（R2）

人材  
育成



### 「漁師の手仕事」体験メニュー作り

観光施策の中で、滞在時間を延ばす体験メニュー作りが急務となっていたことから、地場産業の事業者と連携した体験メニュー作りを取組んだ。旧西廣家公開と連動した取組みとして、水産業の中でも「漁師の手仕事」を中心に検討し、外国人モニターからの情報収集も行った。

■KPI 体験メニューの開発数：0事業（H29）→20事業（R2）

普及  
啓発



### 旧西廣家住宅（治郎吉）主屋の公開

江戸時代末期に紀州から銚子に移り住んだ西廣家は、今も続く銚子を代表する船主。鰯漁を主として、干鰯や鰯節生産、缶詰製造を行ってきた歴史を伝える建物が残る。観光拠点としての活用を目指し、ガイドによる建物等の解説、観光案内や来訪者との交流の場として好評を得た。

■KPI 体験を活用した事業数：0事業（H29）→20事業（R2）

普及  
啓発



## 成果

### ① 銚子資産の情報を発信

情報発信力等に課題があると指摘されてきた中で、今後の事業展開のコンセプト作りが始まり、継続的かつ統一的な事業展開を行い、効果的で魅力発信ができるように方針を共有した。

### ② 体験メニュー作りでの連携

本市の歴史文化に関連する素材やストーリーが展開できる体験メニューを検討する中で、地場産業の事業者へ働きかけを行ったことで、新たな交流や協力関係を構築することができた。



文化庁

関東地方

# 伊勢原市【神奈川県】 歴史文化基本構想を活用した 観光拠点づくり事業



■協議会メンバー  
伊勢原市／大山阿夫利神社／大  
山寺／宝城坊／比々多神社／大  
山観光振興会／比々多観光振興  
会／たかべや緑の里振興会／伊  
勢原市文化財保護審議会／伊勢  
原市文化遺産活用実行委員会

■構想策定年度…  
平成二十八年一月  
■補助事業期間…  
平成三十年四月二日  
平成三十一年三月二十九日

## 歴史文化基本構想の概要

伊勢原市は丹沢の霊峰である大山の麓に広がり、豊かな自然と長い歴史、多彩な文化財を有する。古代からの大山への信仰が江戸時代に花開き、現在へと引き継がれる「大山詣り」をはじめとする地域共有の財産を、後世へ確実に継承していくことを目指す。さらに、市民団体等との協働、関係諸機関との連携により、歴史・文化遺産を地域の活性化やまちづくりにも活用していく。

### 観光拠点形成の方向性

- ・豊かな自然環境と歴史・文化遺産を重要な観光コンテンツと位置づける
- ・歴史文化基本構想に沿い、文化財の活用によりその保存・継承を図る

### 観光に関する課題

- ・文化財の集中エリアを周遊することにより、観光客の滞在時間を伸ばす
- ・文化財の活用と継承のために、広くその価値の共有化を図る必要がある

## 事業概要

### 地域の歴史的魅力を映像で紹介

地域の歴史や文化財、さらに花、景色、名産品等、地域の魅力をめぐるストーリー仕立ての映像を作成した。市のホームページのほか、動画共有サイトへアップし、広く情報発信に務めた。閲覧件数は公開後1ヶ月で6万件余りとなっている。

■KPI 文化財ホームページの閲覧数:  
45,000件(H28)→55,000件(R1)

情報  
発信



### 海外への情報発信、ホームページの英語化

市域の文化財情報を海外へも発信し、外国人観光客の増加につなげるため、市が管理するホームページ「いせはら文化財サイト」の英語版開設に向け、昨年度に引き続き、文化財解説文の英訳を行った。

■KPI 文化財ホームページの閲覧数:  
45,000件(H28)→55,000件(R1)

情報  
発信



### 文化財で地域を活性化、PRイベントの開催

歴史講演会や文化財ウォークラリー、火起こし等の歴史体験を中心に、地域の魅力を活かしたイベントを開催した。文化財所有者や地域の観光振興団体、地元商店らの協力により、地域の価値を見直す、地域総出のイベントとなった。

■KPI 伊勢原市への入込観光客数:  
約1,900,000人(H28)→約2,300,000人(R1)

普及  
啓発



### 活用対象の絞り込み、モニターツアーの実施

外からの目で地域の魅力を評価することで、地域がその価値を再認識し、また、活用へ向けたターゲットを絞り込むため、旅行ツアー企画者、発信力のある外国人メディア、一般旅行者を対象とするモニターツアーを実施した。

■KPI 伊勢原市への入込観光客数:  
約1,900,000人(H28)→約2,300,000人(R1)

普及  
啓発



## 成果

### ① 知名度の向上と周遊環境の整備

歴史の里と言われながら、知名度の向上が課題となっていた比々多地区について、映像やイベント告知等メディアを利用した情報発信、さらに案内板の設置やトイレの改修等により、周遊環境が整備された。

### ② 地域の理解の深化と結束力の強化

それぞれの事業は、準備段階から地域の協力のもと取り組んでおり、目指した成果に結びついただけでなく、参加関係者の地域への理解が深まるとともに、文化財を核として異なる立場の連携が強化された。



文化庁

# 高岡市【富山県】

## 歴史文化基本構想を活用した 観光拠点づくり事業

中部地方



■協議会メンバー…  
高岡市日本遺産推進協議会／勝興寺まちづくり協議会／高岡市教育委員会

■構想策定年度…  
平成二十三年三月  
■補助事業期間…  
平成三十一年四月二日  
平成三十一年三月二十九日

### 歴史文化基本構想の概要

文化財の保存・活用を通して、歴史や風土を学び、ものづくり文化をさらに洗練していくことを目指す。また、市民一人ひとりが高岡市の「人・ものづくり・文化」を担っているという意識を高めていくことを通して、市民が郷土に対する誇りを持ち、ものづくりの結晶が輝くまちを実現していくことを将来像とする。

#### 観光拠点形成の方向性

- ・日本遺産認定、ユネスコ無形文化遺産登録を活かす環境整備
- ・北陸新幹線開業を契機とする高岡の多様な文化、伝統、産業の活用

#### 観光に関する課題

- ・中心市街地から離れている伏木地区の歴史的価値等の魅力発信
- ・インバウンド対応として施設案内や文化財紹介の多言語化



事業概要

### QRコードによる主要文化財説明板の多言語化

重要文化財や重要伝統的建造物群保存地区など、観光拠点として活用していく高岡の主要な文化財の説明版にQRコードパネルを添付するとともに、それぞれのリンク先のホームページ内容を多言語化（英語、繁体字、簡体字）する整備を実施。

情報発信



KPI 高岡市宿泊者数：250,241人(H28)→255,245人(R1)

### 勝興寺を活用したイベント事業開催

勝興寺を地域のために活かすアイデア等を地域で考え、実行することを目的にワークショップを実施（参加数 23名 5～6名×4グループ）。ワークショップにおいて実行力を認めたメンバーを改めて集め、アイデアを形にするために準備会議を開催し、トライアル事業として寺院発アートイベント「ふるこはんフェス」を開催。フェスでは、坊主カフェ＆バーや音楽法要といった真宗寺院ならではの演出を組み込むことに注力。

普及啓発



KPI 勝興寺ほか2館の来場者数：17,484人(H27)→18,009人(R1)



成果

#### ① 「おもてなし」環境の向上

QRコードによる主要文化財説明板の多言語化を図ることで、訪日外国人観光客をはじめ、市外から訪れる方に高岡をより楽しんでいただける「おもてなし」環境が向上した。

#### ② 寺院を核とした観光まちづくりの萌芽

勝興寺を地域のために生かし、後世に継承していくため、心の拠り所としての寺院と観光資源としての寺院の両立に向けた地域人材の育成や環境整備の端緒となった。



文 化 庁

## 歴史文化基本構想の概要

若狭湾に抱かれた小浜市は、海山里が一体となった自然豊かな地で、都の天皇・貴族家に食材を提供する「御食国」の歴史をもち、海と都をつなぐ文化交流の拠点であった。この輝かしい歴史を未来へつなぐため、「御食国若狭の成立と発展」をテーマに、食文化を基軸におき、食を育むまち・社寺・自然、食への祈りの民俗行事を一体的に保存継承する方針を定めた。

### 観光拠点形成の方向性

- ・食を愉しむ「文化財泊」の推進
- ・食文化の体験メニュー化
- ・食文化、食の歴史を学ぶ「御食国アカデミー」のツアー受け入れ

### 観光に関する課題

- ・情報発信の一元化
- ・周遊滞在型観光基盤の整備
- ・文化財泊推進のためのパイロット
- ・外国人旅行者の受け入れ体制



事業概要

### 宿泊・体験紹介WEBサイト制作事業

「OBAMA MACHIYA STAY」として、伝統的な町家宿と歴史文化を活用した体験等を一元化したWEBサイト（日本語・英語）を作成した。食や食文化の紹介、体験ツアーの申し込みを、宿泊申し込みを主体とし、外国人を含む長期滞在型の誘客を促進している。

KPI WEBビューワー 50,000件(H30)→69,000件(R2)

### インバウンドモニターツアー事業

外国人招致および国内在住の発信力のある外国人ツアーの2回を開催している。外国人招致のツアーでは、食文化体験と文化財活用を通じ、アンケート調査により受け入れ体制のブラッシュアップを図った。国内在住外国人ツアーではSNSなどによる情報発信を実施した。

KPI 外国人体験ツアー参加者 50人(H30)→150人(R2)

### 英語ツアーガイド人材育成事業

一般的な英訳ではなく、文化財をターゲット国に響く物語として「伝え共感を得る」ガイド人材の育成のため、京都で通訳士として活躍する講師を招き、特徴的な文化財を素材として研修を実施した。

KPI 英語ガイド登録者 10人(H30)→20人(R2)

### 歴史文化を活用した宿泊施設の整備事業

港町の風情残す重要伝統的建造物群保存地区「小浜西組」において、物販イベントスペースを併設する宿泊施設として町家を整備中。

「OBAMA MACHIYA STAY」の中核として、食文化体験などと融合した町歩き観光・滞在型観光を目指している。

KPI 古民家泊収入 200万円(H29)→1,000万円(R2)



成果

### ① 多様な体験ツアーを企画開発

事業の実施にあたり、歴史文化基本構想を丁寧に説明し、多くの住民団体や文化財管理者との協働により多様な観光ツアーを企画し、文化財とそれに携わる人が一体となった体験メニューが多数開発された。

### ② ゆったり町を愉しむ空間整備

OBAMA MACHIYA STAYを進める中、平成29年に2軒であった古民家宿泊施設が5軒に増加し、周辺にも飲食店舗が増加した。宿泊にあわせ体験や町歩きメニューを紹介し、着地型観光が定着しつつある。

情報発信



普及啓発



人材育成



活用整備



# 小浜市【福井県】 歴史文化基本構想を活用した 観光拠点づくり事業



■協議会メンバー…  
株式会社まちづくり小浜／小浜西組町並み協議会／若狭おぼろ西組町並み協議会／若狭おぼろ観光協会／若狭青年会議所／宗文化人明通寺／小浜市の歴史と文化を守る市民の会／株式会社福井銀行／小浜商工会議所／小浜市

■構想策定年度…  
平成二十四年三月  
■補助事業期間…  
平成三〇年四月二日  
平成三一年三月二十九日

中部地方

# 名古屋市【愛知県】 歴史文化基本構想を活用した 観光拠点づくり事業



■協議会メンバー…  
名古屋市教育委員会事務局文化  
財保護室／名古屋市観光文化交  
流局ナゴヤ魅力向上室／同局歴  
史まちづくり推進室／公益財団  
法人名古屋観光コンベンション  
ビューロー他

■構想策定年度…  
平成二九年三月  
■補助事業期間…  
平成三〇年四月二日  
平成三一年三月三十一日

## 歴史文化基本構想の概要

本市構想では、名古屋城下や熱田神宮周辺など「名古屋を代表する文化財」と市域全体に広がる「身近なまちの文化財」に分けて課題を整理した。前者の重要性は市の主要計画などでも取り上げられており、着実に名古屋らしい魅力を創出し、歴史観光につなげていくことを目指す一方、後者についても市民参加の調査体験等でその価値を明らかとし、活用につなげていくことを目指すこととした。

### 観光拠点形成の方向性

- ・名古屋城や熱田神宮の価値を高める
- ・周辺地域に集客の拠点をつくる
- ・中心部と周辺部の拠点それぞれの価値を高め互いにつなぐ

### 観光に関する課題

- ・観光地が点として捉えられがち
- ・観光の目的地が少ない
- ・文化財の認知度が低い
- ・外国人の受け入れ体制が不十分

## 事業概要

### アプリと連動した文化財観光マップ作成

観光拠点である名古屋城、熱田神宮から周辺へと広がる地域を中心に、歴史文化基本構想の関連文化財群を紹介するマップを作成した。30年度は守山区の志段味地区などを中心に、360°撮影データなどと連動させたマーカーを配したマップを制作した。

■KPI 市観光客・宿泊客数：  
43,310,000人(H27)→47,000,000人(R1)

情報発信



### アプリまち歩きルート of 著名人による紹介

重要な伝統的建造物群保存地区「有松」を対象とし、当地区でも有数の絞商家「竹田家」の中村倭子さんと町並みガイドボランティア「あないびとの会」加藤明美さんによる有松の町並みを紹介するホームページを公開した。「内」と「外」二つの視点から有松の魅力を情報発信できた。

■KPI 市観光客・宿泊客数：  
43,310,000人(H27)→47,000,000人(R1)

情報発信



### 民俗文化財を通じた観光振興のシンポジウム

シンポジウム講師と保存会のみなさんのシンポジウムでは、祭礼が地域の再生に果たす役割が語られた。またツアー事業では、実際に神楽屋形を用いた祭礼の担い手から参加者に対する解説と体験指導が行われた。参加者の満足度も高く、今後のメニュー化の参考となった。

■KPI イベント等参加者数：200人(H29)→250人(R1)

普及啓発



### 観光コース起点歴史案内板

これまであまり整備の進んでこなかった美濃路を、ルートとして「見える化」を進めたことで、名古屋駅と名古屋城の間に位置する好立地を生かす素地を固めることができた。文化財観光基盤情報アプリ「なごや歴史探検」や、ウォーキング事業のマップとも連携が進んだ。

■KPI 市観光客・宿泊客数：  
43,310,000人(H27)→47,000,000人(R1)

普及啓発



## 成果

### ① 外国人の情報利用者が増加

名古屋城・熱田神宮の来場者をもみても海外からの観光客の増加傾向が認められる。30年度観光文化財アプリ「なごや歴史探検」の多言語版ダウンロード数が476件あり、増加傾向にある。

### ② 観光資源として期待される、まちの文化財

マップなどで取り上げた文化財は指定文化財に限らなかったが、ウォーキングなどでも新しい発見があったと好評であった。こうした地域の文化財の「見える化」が十分に観光資源化につながることが確認できた。



文化庁

# 瀬戸市【愛知県】 歴史文化基本構想を活用した 観光拠点づくり事業

中部地方



■協議会メンバー  
瀬戸商工会議所／瀬戸市まるつ  
とミュージアム・観光協会／瀬  
戸まちづくり株式会社／瀬戸市  
国際センター／公益財団法人瀬  
戸市文化振興財団／瀬戸市

■構想策定年度…  
平成二十九年二月  
■補助事業期間…  
平成三〇年四月二日  
平成三一年三月二日

## 歴史文化基本構想の概要

瀬戸市は千年以上の窯業の歴史を持ち、「陶都」とも呼ばれる都市である。その背景には、窯業生産に適した豊かな自然資源や環境、尾張・三河・美濃三国の境界地であるため各地の文化を取り入れてきた歴史などがある。こうした歴史や文化を示す市内の歴史文化遺産を総合的に把握し、瀬戸市特有の風土も踏まえ、関連文化財群を8つのストーリーにまとめている。

### 観光拠点形成の方向性

- ・歴史文化を観光地域資源とし、ストーリーに基づき面的整備を図る
- ・「せともの」を切り口に地域の産品などのブランド化を図る

### 観光に関する課題

- ・観光客や市民の瀬戸の認知度不足
- ・歴史文化情報の未整理と一元化不足
- ・地域資源の新たな発掘が不十分
- ・地域資源のネットワーク化が不十分



事業概要

### ARアプリを活用した観光資源開発事業

文化財を身近に感じるためのARアプリを開発した。スマートフォンで位置情報を取得し、今いる場所及び目的地の場所に関連づいた情報を表示する。親しみやすいイケメンキャラクターとの会話で観光ポイントを廻り、観光客が周遊しやすく、かつ楽しみやすいアプリの制作を行った。

■KPI アプリのダウンロード数：0(H29)→1,000(R1)

情報発信



### 市内文化財看板のQRコード及びUni-Voice事業他

観光拠点となりうる市内の文化財、地域資源の既設案内・説明看板に説明の音声読み上げコードUni-Voiceコードのシールを貼り、文化財を直接見ながら、その説明を聞くことができるようになった。ガイドマップも新たに4か所作成し、既存マップの多言語化とともにツールを広げた。

■KPI QRコード及びUni-Voice設置箇所数：0か所(H29)→40か所(R1)

情報発信



### 地域資源情報交換ワークショップ事業

観光客の視点にたつて市内に点在する歴史・文化にかかわる地域資源を評価し、それを活用した観光に対する機運を高めるため、実際にその地域に住む人同士で情報交換を行い、各地域資源間の連携を図り、その資源の観光活用方法検討のため、ワークショップを開催した。

■KPI ワークショップ参加者のうちガイドへの新規登録者数：0人(H28)→10人(R1)

人材育成



### 観光名所をめぐるスマートフォンスタンプラリー実施事業

瀬戸市の歴史文化や関連文化財に関して、楽しみながら知識を増やす機会としてスマートフォンを活用したスタンプラリーを行った。まちなかに設置した29体の福猫を探しながら、文化財や歴史文化、観光スポットを巡るスタンプラリーを実施した。

■KPI スタンプラリー参加者数：0人(H28)→1,000人(R1)

普及啓発



成果

#### ① 地域資源のみえる化

ガイドマップの追加や多言語化、ワークショップによる地域資源の掘り起こし等により、これまで広く知られていなかった地域観光資源を来訪者に魅力的なものとして再認識することができた。

#### ② 新たな観光プログラムの開発

親しみやすいキャラクターとともにARアプリで文化資源を巡ったり、スマートフォンを使ってキャラクターを探すなど、多くの地域資源を楽しみながら巡ることができるようになった。

## 歴史文化基本構想の概要

平成18年に1市6町（3郡）が合併し、三重県境の鈴鹿山脈から琵琶湖までを市域に持つ。市域は、山・里・湖の地域を一級河川愛知川が貫流し、地域ごとに聖徳太子や織田信長にゆかりの地、木地師文化の発祥の地や近江商人の本宅群など豊富で多彩な文化財が市域全域で見られる。これら広範囲にわたる多様な文化財を可視化し、認知と活用の促進を目的に方針を定めた。

### 観光拠点形成の方向性

- ・「点」の文化財を「線」でつなぐ
- ・鉄道路「線」を活用した「周遊」
- ・参加や体験を通じた国内リピーターや外国人観光客の獲得

### 観光に関する課題

- ・起点（駅周辺）や経路の案内の不在
- ・個々の文化財同士の繋がりが無い
- ・観光客（外国人含む）向けホスピタリティや提供コンテンツ等の不足

# 東近江市【滋賀県】 歴史文化基本構想を活用した 観光拠点づくり事業



関西地方

## 事業概要

### 聖徳太子関連文化財ガイド育成事業①

市中心部を近江鉄道を起点に、市全域の聖徳太子ゆかりのエピソードや文化財相互の関係性、それぞれの地域の魅力までを語る総合ガイドを養成した。講座では、ガイドとしての文化財の知識のみならず、観光客の視点を理解し、“おもてなし”のための接客技術についても講習した。

**KPI** ガイド登録者数：8名(H28)→16名(R1)

### 聖徳太子関連文化財ガイド育成事業②

実地講習では、説明の時の立ち位置や説明の視点、誘導の方法や安全管理についても講習した。養成講座も二年目となり、平素は自主的に駅や現地でガイド活動を展開し、自発的に地域の文化財に関わるガイドが養成できた。休日には自主ガイド活動に取り組まれている。

**KPI** ガイド登録者数：8名(H28)→16名(R1)

### 聖徳太子関連文化財解説冊子作成事業

聖徳太子ゆかりの文化財をテーマごとに紹介、解説する冊子「聖徳太子WO探せvol2」及び市域での分布と経路を概観する地図「聖徳太子WO探す地図」を作製した。昨年度作成した冊子及び地図を併用することで、市域に広がる聖徳太子の足跡を俯瞰的に眺め、訪ねられるものとした。

**KPI** 東近江市の入込客数：202万人(H28)→220万人(R1)

### 聖徳太子関連文化財モニターツアー事業

鉄道駅を基点として、市内に点在する聖徳太子関連文化財を周遊するモニターツアーを実施した。ツアー参加者にはアンケートをとり、その意見をガイドのスキルアップへの気づきとすることが出来た。また実際に現地を訪れた際の問題点などの指摘もあり、見学地の課題抽出が出来た。

**KPI** モニターツアー実施回数：0回(H28)→20回(R1)

人材育成



人材育成



情報発信



普及啓発



## 成果

### ① ガイド登録者数の増加

昨年度に引き続きガイド講座を募集したところ、のべ33名の応募があり（昨年度14名）、座学や現地研修の結果、受講者の中から新規ガイド登録者を得られた。

### ② 鉄道駅を起点としたガイド事業の開始

ガイド養成講座やモニターツアーに取り組んだ結果、ガイド登録者が自主的に、近江鉄道駅を基点とした休日ガイド事業を立ち上げた。今後、拠点駅を増やすと共に、バスツアーガイドにも取り組んでいく。

■協議会メンバー  
東近江市社会福祉協議会／八日市  
市商工会議所／近江鉄道株式会社  
社／東近江市観光協会／八日市  
地区まちづくり協議会／清水・小脇街づくり委員会／東近江市

■構想策定年度…  
平成二九年三月  
■補助事業期間…  
平成三〇年四月二日  
平成三一年三月二日  
平成三一年三月二日



# 高砂市【兵庫県】

## 歴史文化基本構想を活用した 観光拠点づくり事業



関西地方

■協議会メンバー  
高砂市観光交流ビューロー／高砂商工会議所青年部／高砂青年会議所／高砂市国際交流協会／高砂市／高砂市教育委員会

■構想策定年度…平成二十三年三月  
■補助事業期間…平成三十一年四月二日～平成三十一年三月三十一日

### 歴史文化基本構想の概要

高砂市は、市域中央の山地で1700年以上採石されてきた「竜山石の文化」、川と海の結節点に築かれ文化・経済の交流拠点となった「みなとのまち」をはじめ、4つの関連文化財群の保存・活用を図りながら、市民が地域に誇りをもち、資源を顕在化し再生していくことを基本方針としている。地域の個性をまちづくり・ひとづくりの中で活かしながら、地域づくりや活性化を図っていく。

#### 観光拠点形成の方向性

- ・市民や海外旅行者などの来訪者に向けて地域の魅力を発信する
- ・後継者の育成を図りながら観光を通じた地域の再生に取り組む

#### 観光に関する課題

- ・観光拠点を明確にし市域全域に点在する資源をつなげる必要がある
- ・来訪者が歴史文化の価値や魅力を感じられる取組みが不十分である

### 事業概要

#### 竜山石の文化・みなとのまち情報発信事業

竜山石の魅力を紹介する日本語版HPを、英語・中国語・韓国語の3か国語に多言語化し、外国人観光客に対応した。トリビアやインタビューなどの読みやすい記事や関係自治体HPへのリンクを掲載し、情報発信を拡充した。

■KPI 文化財施設の見学等実施学校数：0校(H28)→16校(R1)

情報  
発信



#### 竜山石PR事業

外国人を含む若手の石彫作家が竜山石の作品を公開制作する、石彫シンポジウムを行った。身近なアートのふれあいと、歴史文化とアートの融合は、観光拠点の資源ともなる、新たな価値を創造する取組みにもなった。

■KPI イベント参加人数：200人(H28)→1,000人(R1)

普及  
啓発



#### 文化観光ガイド育成事業

観光と文化財をつなぐ人材を育成するため、誘客促進をテーマに研修会・講習会を行った。外国語ガイドの養成に向けた課題や、インバウンド対応に必要なノウハウについて意見交換し、具体的な目標設定を認識できた。

■KPI ガイド登録者数：10人(H28)→30人(R1)

人材  
育成



#### 「結びのストーンパーク」整備事業

国史跡周辺地と他地区の観光拠点を結ぶ動線を設定し、石彫作品を屋外展示するなど、歴史文化に止まらず多様な魅力を発信する観光拠点として、次年度以降に整備する事業構想の立案に取り組んだ。

■KPI 体験・ツアー等の件数：3件(H28)→30件(R1)

活用  
整備



### 成果

#### ① 竜山周辺地区観光客数の増加

ガイド活動や石彫シンポジウム・イベント実施の結果、竜山周辺地区の観光客数が平成28年度から6割増の4万6千人（平成30年度末）に達した。

#### ② 観光コンテンツの拡充

石彫作品の制作展示により、既存の史跡・文化財だけでなく、歴史文化とアートの融合による、観光コンテンツを新たに拡充することができた。

## 歴史文化基本構想の概要

令和元年5月1日、丹波篠山市に市名変更し、更なる観光拠点整備に取り組む。篠山城下町、八上城などの山城、宿場町福住の町並みは、市民の心の拠りどころとして『デカンショ節』に歌い継がれている。城下町を一歩出るとひろがる「農村集落」や街道沿いに残る「街道集落」。多彩な文化を育んだ日本遺産のまち丹波篠山の文化財を活用し、歴史・文化の息づくまちづくりを進める。

### 観光拠点形成の方向性

- ・ 重伝建地区である町「福住保存地区」を観光拠点として整備
- ・ 京都を訪れる観光客を丹波篠山市に誘引する観光コースづくり

### 観光に関する課題

- ・ 観光客(特に外国人) 向けの看板・パンフレット類の不足
- ・ 一筆書きで周遊できる観光コースの更なる充実
- ・ 市内周辺地域との連携不足

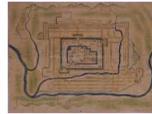
## 事業概要

### 「丹波篠山西京街道古地図散歩」推進事業

「丹波篠山城之絵図」(正保城絵図 1644年頃) など3種の古地図を見ながら観光できるWebサイトを制作。GPS機能を活用し、タイムスリップしたように城下町や街道を散策しながら、歴史資源の解説や写真を見ることができる。端末の言語設定により英語表記も可能にした。

KPI Webサイト閲覧数：0件(H28)→19,000件(R1)

情報  
発信



### 西京街道モニターツアーの実施

西京街道を活用して京都方面からの観光客を誘引するため、外国人モニターを募集し、ツアーを3回(①福住の町並みと祭礼、②丹波篠山の味覚と日本酒、③丹波篠山の田舎ごはんと城下町)実施。いずれも英語通訳ガイドが同行。将来的には外国人向けツアーコースの開発に繋げる。

KPI ツアーモニターの実施数：0件(H28)→9件(R1)

普及  
啓発



### 西京街道ツアーガイドブック製作

京から篠山へ続く西京街道を活用し、京都方面より発着し、福住・篠山城下町を観光するツアーモニター事業で得られたデータから、ガイドブック「Visit Tamba Sasayama Saikyo Kaido」を作成。丹波篠山の歴史や文化を紹介し、観光のモデルコースを紹介した。日本語・英語併記。

KPI ツアーモニターの実施数：0件(H28)→9件(R1)

普及  
啓発



### 住吉神社「住之江の庭」の再生と活用

名作庭家、重森三玲が手がけた住吉神社「住之江の庭」を観光拠点として再生・活用するため、市民を対象に「住之江の庭」の魅力を学ぶ講演会や修復手法・保全技術を学ぶ勉強会を実施した。平成30年度は修復ワークショップを11回開催し、市内外から延べ266名が参加した。

KPI ワークショップの参加人数：0人(H28)→30人(R1)

人材  
育成



## 成果

### ① 文化財の保存・活用への理解の深化

「住之江の庭」修復ワークショップを実施し、活動報告書を作成した結果、地域住民に庭への愛着が生まれ、文化財保存・活用への理解を深めることができた。

### ② メディア発信による地域の関心の向上

修復ワークショップの様子が新聞3紙で紹介され、福住保存地区における文化財保存・活用の機運が高まった。引き続き前庭整備、ガイド養成事業をメディアに発信し、地域による保全意識の向上に繋げる。



# 丹波篠山市【兵庫県】 歴史文化基本構想を活用した 観光拠点づくり事業



関西地方

■協議会メンバー…  
福住地区まちづくり協議会/福  
住まちなみ保存会/丹波篠山市  
教育委員会事務局文化財課

■構想策定年度…  
平成二三年三月  
■補助事業期間…  
平成三〇年四月二日  
平成三一年三月二九日



文化庁

## 歴史文化基本構想の概要

朝来市は、山陰道・播但道・古代官道の結節点、すなわち「但馬の南玄関」である。古代から朝鮮半島との独自交流によって発展し、中近世には全国屈指の銀山を擁する生野が天下人の財源を支え、周辺に強固な城郭が作られた。明治には官営鉱山として日本の近代化に大きく貢献した。人・モノ・文化交流の中心地として発展した地域の個性を、観光振興、まちづくりに活かしていく。

### 観光拠点形成の方向性

- ・歴史文化遺産を地域の誇りとして後世に残す
- ・朝来市の強みを観光資源として市内周遊観光ルートを創造する

### 観光に関する課題

- ・スポット的に観光客が訪れているが市内周遊の誘導ができていない
- ・市内一括の情報発信ができていない
- ・幹線道路からの看板設置が不十分

## 事業概要

### 朝来市城郭集成の作成

天空の城として有名となった竹田城跡だけでなく、朝来市には数多くの中世山城が存在している。それらを広く知ってもらうことで、地域の郷土愛の醸成とともに、竹田城跡へ訪れた観光客の市内周遊を目指して、「朝来市城郭集成」を作成した。冊子は、市HPでも読むことができる。

**KPI** 城郭遺跡見学会・講演会への参加者数：  
200人(H29) → 250人(H30)

情報  
発信



### 大蔵の山城周遊看板の設置

平成29年度からの継続事業として、大蔵地域の山城登山道、遺構情報を掲載した案内看板を設置した。地域住民による声掛けや案内によって、大蔵の山城パンフレットを持って山城を歩く観光客が増えてきている。

**KPI** 朝来市内の中世山城を活用した連携イベント：  
1回(H29) → 2回(R1)

情報  
発信



### 朝来市歴史文化遺産看板の設置

平成29年度に作成した「朝来市歴史文化遺産マップ」による観光客の市内周遊をさらに促進するため、指定文化財でありながら来訪者の少なかった市内の歴史文化遺産3箇所に、観光用看板を設置した。QRコードからYouTubeへリンクし、動画による紹介を導入した。

**KPI** 朝来市への観光客数：  
2,293,496人(H29) → 2,350,000人(H30)

情報  
発信



### 大蔵の山城啓発講演会の開催

冊子「大蔵の山城」に記載してある情報をもとに、制作者の一人が経験した山城発見の状況や、実際に遺構を歩く楽しさ、地域の歴史の面白さなどを伝える講演会を開催した。前年同様、地元住民だけでなく、阪神間の関係者にも声掛けし、広域から聴講者を得た。

**KPI** 大蔵地域の歴史文化遺産を活用したイベント：  
1回(H29) → 10回(R1)

普及  
啓発



## 成果

#### ① 地域住民の関心が高まった

地元の歴史文化遺産に関心を持ち、歴史を学んだり自発的に地域の歴史文化遺産を調査する動きが市内全域で出来つつある。郷土愛やおもてなしの心の醸成が、観光客誘致に効果を発揮すると期待される。

#### ② 観光客の周遊が増加傾向

即効的な成果は出ていないが、マップを手にした観光客や今まで知られていなかった歴史文化遺産への来訪者が徐々に増加してきている。

# 朝来市【兵庫県】 歴史文化基本構想を活用した 観光拠点づくり事業



関西地方

■協議会メンバー…  
和山町観光協会／生野町観光協会／  
奥谷地域自治協議会／大蔵地域自治協議会／  
竹田地域自治協議会／  
梁瀬地域自治協議会

■構想策定年度…  
平成二十八年三月  
■補助事業期間…  
平成三〇年四月二日  
平成三一年三月二九日

# 淡路市【兵庫県】 歴史文化基本構想を活用した 観光拠点づくり事業

関西地方



■ 協議会メンバー  
淡路市教育委員会／淡路市／株式会社ほくだん／生田地域活性化協議会／淡路島和歌の路創造委員会／五斗長まちづくり協議会  
／舟木の歴史文化をいかにす会

■ 構想策定年度…平成二八年三月  
■ 補助事業期間…平成三〇年四月二日  
平成三一年三月二十九日

## 歴史文化基本構想の概要

「淡路市固有の歴史文化の価値を共有し、市民・行政・専門家等が協働して守り、育み、その魅力に磨きをかけて、まちづくりに活かしていく」基本理念をとりまとめた。平成28年度には淡路島3市と共同して「日本遺産」の認定を得るなど、歴史文化遺産を地域づくりに活かす取組みを進めてきたが、少子高齢化・過疎化の影響から、淡路市内においては、地域の格差が顕著となっている。そこで、地域活性化ならびに豊かな歴史文化を将来世代に伝えていくことを目的に策定した。

### 観光拠点形成の方向性

- ・東浦・西浦に分かれた独自の個性的な風土を活かす
- ・東西地域をつなぐ周遊性の形成
- ・市域全体に歴史文化遺産を活かしたまちづくりを展開

### 観光に関する課題

- ・地域資産の確立が不足
- ・情報の発信や人材の育成が不十分
- ・主体間の連携が不十分で、組織的な活動をしていない

## 事業概要

### 歴史文化遺産情報発信事業

西浦歴史文化保存活用区域の文化財を中心に、日本遺産構成文化財や地域の人の取組みを紹介。文化財の魅力と地元ならではの情報などを盛り込んだパンフレットを作成した。

情報  
発信



【KPI】パンフレット配布数・ダウンロード数：  
0部(H29)→3,000部(R2)

### 五斗長垣内遺跡体験ボランティア養成講座事業

観光旅行者等に国指定史跡である五斗長垣内遺跡を深く理解してもらうために、淡路市民および近隣都市住民などに公募し、年10回の展示案内解説講座、体験学習における指導講座、自然体験講座等を開講することで、案内ガイドや体験活動を補助するボランティアを養成した。

人材  
育成



【KPI】ガイド利用の来訪者数：0名（H29）→500名（R2）

### 生田地域文化遺産PRイベント開催事業

地域の歴史文化遺産である居館を中心に、美しい棚田景観やため池、地域の社寺、祠などをめぐるガイドツアーを実施。また、近接地域と連携し、遺跡まつりや東山寺もみじ祭りと同日に開催することで観光客の周遊を促した。また、長距離ウォークを実施することで健康関心層へのPRにもつなげた。

普及  
啓発



【KPI】イベント参加者数：1倍（H29）→1.25倍（R2）

### 舟木地域文化遺産活用事業

弥生時代後期の遺跡である舟木遺跡やその中心地にある石上神社、各所に存在する祀所、そこで行われる祭・行事について、価値を共有した。地域住民にとどまらず、遺跡・民俗文化財に興味のある人々によって交流人口の増加をはかり、観光拠点としての基盤をつくった。

普及  
啓発



【KPI】会員の増加：0名（H29）→15名（R2）

## 成果

### ① ボランティア講座生の参加

観光旅行者等に五斗長垣内遺跡を深く理解してもらうため、体験ガイドの美技指導や解説講座、竪穴建物復元講座を実施した。認定を受けたボランティアは、体験イベント時に積極的に活動している。

### ② 地域文化遺産のPR

歴史文化遺産の豊富な西浦地域の活性化をめざし、地域住民が主体となった活用事業と結びつけ、文化財の保存継承のための仕組みを形成した。また、これにより観光客の周遊につなげた。

# 神河町【兵庫県】

## 歴史文化基本構想を活用した 観光拠点づくり事業



関西地方

■協議会メンバー  
地域住民／観光協会／商工会等  
の  
関  
係  
団  
体  
／  
行  
政

■構想策定年度…  
平成二十八年三月  
■補助事業期間…  
平成三十一年四月二日  
平成三十一年三月一日

### 歴史文化基本構想の概要

私たちの町、神河町では、文化財や地域で長く伝えられてきた“宝もの”を「歴史文化遺産」と呼び、次世代に受け継いでいくための様々な取り組みを進め、まちづくりに活かしている。そして、歴史文化遺産を活かしたまちづくりをより一層効果的に進めていくために、「神河町歴史文化基本構想」「神河町歴史文化保存活用計画」を策定した。

#### 観光拠点形成の方向性

- ・歴史文化遺産を検証し後世に伝える
- ・魅力と価値を体感できる場を整える
- ・学びと交流のフィールドづくり
- ・ものがたりを支える体制をつくる

#### 観光に関する課題

- ・現況を損なわない復元整備
- ・地域内での価値や情報の共有
- ・地域外への情報発信
- ・有効活用のための補足調査

### 事業概要

#### 神河の魅力発信事業

日本遺産に認定された「銀の馬車道（正式名：生野鉦山寮馬車道）」とその周辺に所在する関連文化財群を活用したウォークの第2弾。馬車道沿道コースでは、地域住民による解説やおもてなしが行われた。紫陽花の季節に、町内外からの参加者が楽しんだ。その他、歴史文化遺産を巡る講演会では、専門家、地元住民や観光ボランティアから、神社仏閣をはじめ地元に遺る多くの歴史文化遺産の説明や、旧街道筋では、往時の様子を宿場町であった頃の屋号が記された案内板で説明を受けた。



普及啓発

■KPI イベントへの参加者総数：500人（H29）→2,000人（R1）

#### 国登録有形文化財 旧難波酒造 リノベーションプロジェクト

旧難波酒造は神河町で初めて国登録文化財になった建造物です。これをリノベーションし地域の観光拠点として活用するプロジェクト。平成31年度は茶室と土蔵を改修した。

茶室では、地元の高校生が、日本遺産の構成資産でもある神河町に伝わる「仙霊茶」を使ったお茶会が行われた。土蔵では、地元の書家による展示会等も行われ、また地域では「銀の馬車道まつり」も開催され多くの方が訪れ、神河町に賑わった。



活用整備

■KPI 神河町の観光施設等に訪れる入込客数：705,800人（H29）→800,000人（R1）

### 成果

#### ① 歴史文化遺産の魅力発信を継続

町内外の参加者に継続的に地域の食文化や民俗芸能など歴史文化遺産を紹介したことで、神河の魅力発信に繋がった。

#### ② 地域の関心や協力体制の強化

銀の馬車道沿道の粟賀・中村景観形成地区では、四季色々なイベントが開催される。これらのイベントに国登録建造物の旧難波酒造を活用する事で地域の盛り上がり観光拠点が増えた。

# 津和野町【島根県】 歴史文化基本構想を活用した 観光拠点づくり事業



中国地方

■協議会メンバー…  
津和野町／津和野町観光協会／旧堀氏庭園を守り活かす会／日原賑わい創出推進協議会  
津和野町観光協会／旧堀氏庭園教育委員会

■構想策定年度…  
平成二十三年三月  
■補助事業期間…  
平成三十一年四月二日～  
平成三十二年三月三十一日

## 歴史文化基本構想の概要

津和野町の文化財を将来にわたって的確に保存・活用していくため、住民の参加と協力による「体制」作りと「調査・活動」を基本方針とし、「城下町の史跡と文化」をはじめとした8つの関連文化財群と、「天領と川が育んだ町並み景観」など10箇所の歴史文化保存活用区域などに設定された保存・活用の方策を実施していく。

### 観光拠点形成の方向性

- ・町内文化財等の地域資源の魅力向上
- ・旧城下町と旧天領エリアをつなぐ交通体系の充実
- ・回遊性のあるまちづくり

### 観光に関する課題

- ・誘導、導線の整備
- ・施設の案内機能および駐車場の整備
- ・周遊にかかるイベントの連携
- ・旧天領エリアの魅力発信

## 事業概要

### 案内板の整備

道筋がわかりづらいという観光客からの課題を受けて、来訪客を増やすために、城下町から名勝旧堀氏庭園（旧天領地区拠点）までの間に3箇所誘導サインを設置した。設置箇所は、地元住民と協力して地域を調査し決定した。

**KPI** 旧堀氏庭園の入園者数の増：  
8,054人(H28)→14,000人(H31)

情報  
発信



### 天領地区観光ガイド養成事業

旧天領地区を観光周遊するためのガイドの人材育成を目的として、当該地区の歴史について学習会を実施した。今年度は受講者側の要望により歴史的建造物のガイド方法に重点を置き、学識経験者からポイントを学んだ。

**KPI** 文化観光ガイドの登録者数：2人(H29)→12人(R1)

人材  
育成



### 旧天領体験イベント実施と観光実態調査事業

旧城下町と天領2地区とを繋ぐ魅力的なプランを提供して観光客を増やすため、連携したまち歩きイベントを開催し旅行商品開発の検討を行った。併せて観光客を対象とし、観光志向や交通手段の実態調査を実施した。

**KPI** 体験プラン、ツアーの数：0回(H28)→12回(R1)

普及  
啓発



### 旧天領畑迫地区観光案内所拠点整備事業

既存施設の有効活用と観光客の増大を目的とし、名勝旧堀氏庭園の受付棟を観光拠点または地元団体の活動拠点として整備した。また、利用者の利便性を高めるため庭園施設内の未舗装駐車場を舗装するなど整備を行った。

**KPI** 旧堀氏庭園の入館料等の収入：  
4,400,000円(H28)→5,280,000円(R1)

活用  
整備



## 成果

### ① 観光客の増加

情報発信・活用整備事業により、観光拠点施設周辺を整備したことで利用者の利便性が向上し、観光客が増加。結果、施設来館者前年比138%増となった。

### ② ガイド力の底上げ

観光ガイド向け学習会を2年間継続で実施し、ガイドの知識が向上。地域に関係なく幅広くガイドが集まり、結果的に町全体の観光ガイドの底上げに繋がった。

# 太宰府市【福岡県】 歴史文化基本構想を活用した 観光拠点づくり事業



■協議会メンバー…  
太宰府市／太宰府天満宮／観世音寺／戒壇院／公益財団法人古都大宰府保存協会

■構想策定年度…  
平成二十四年三月  
■補助事業期間…  
平成三〇年四月二日～  
平成三一年三月二九日

## 歴史文化基本構想の概要

市民と協働のもと、文化遺産を総合的に把握し、文化遺産を「そのものとして見守る」・「文化財として保護する」・「市民遺産として育成する」取り組みを通して、文化遺産の保存活用を持続的に行うことを目的とする。  
具体的には、文化財指定や太宰府市民遺産の認定と育成団体の活動等が進んでいるほか、日本遺産認定を受けて観光客の史跡回遊のサポート等も始まっている。

### 観光拠点形成の方向性

- ・市内回遊のための観光ルートの充実
- ・日本遺産のストーリーを活用した市内広域を包括した展開
- ・VR等視覚でわかるような外国人対応も含めた観光コンテンツの制作

### 観光に関する課題

- ・現地の解説・整備では域内の歴史文化を俯瞰する情報が得にくい
- ・観光客向けの体験メニューが少なく、また利用されていない状況
- ・エンタメ目線で案内するガイド等の不足

## 事業概要

### 「西の都」大宰府復元図製作事業（朱雀大路・客館跡）

「西の都」の舞台となる古代都市は時代とともに大きく改変され市街地化し、かつての姿を想像することは、外国人だけでなく国内観光客にとっても難しい。大宰府のかつての壮大な姿を実感できるよう、VRアプリを平成29年度より順次制作しており、引き続き古代都市の重要な構成要素の復元図制作・アプリ搭載を進める。

情報発信



※画像はH28年度制作のVRアプリ

KPI 史跡の復元図コンテンツ数：1件（H29）→4件（R2）

### 「西の都」太宰府観光拠点づくりワーキンググループ運営事業

日本遺産のタイトルにある「西の都」「交流拠点」といった切り口をもとに、史跡地を観光拠点として活用していくためのワーキンググループ設立し、市民や市内事業者が参加した。歴史や文化の紹介を楽しく、観光視点で情報発信・コンテンツ化していくことを中心に検討をしていき、次年度は検討したメニューを実際に販売していくまでにブラッシュアップしていく予定。

事業を構想するための取組み



KPI ワークショップ開催数：0回（H29）→9回（R2）

## 成果

### ① コンテンツの充実

H30年度は復元図制作までで視聴できる状態ではないが、次年度の客館地区平面整備等と並行してコンテンツができると、史跡への理解促進が大きく進み、観光客へ多様なルートを提案できるようになる。

### ② プレイヤーの発掘

市民や市内事業者、学生など、多様な層からの参加者を募ったことにより、日本遺産を活用していく事業におけるプレイヤーの発掘につながった。体験メニューやツアー等コンテンツの充実が期待される。

# 日南市【宮崎県】 歴史文化基本構想を活用した 観光拠点づくり事業



■協議会メンバー…  
城下町・飫肥まちづくり協議会  
/ 飫肥地区自治会 / まちなみ  
再生コーディネーター / 日南学  
園高等学校 / 宮崎大学地域資源  
創成学部土屋研究室 / 日南市

■構想策定年度…  
平成二十三年三月  
■補助事業期間…  
平成三十一年四月二日  
平成三十一年三月二十九日

## 歴史文化基本構想の概要

平成21年3月に日南市・北郷町・南郷町の合併により新「日南市」が誕生した。市民の一体感醸成が課題となる中で、急速に失われつつある地域固有の歴史文化を再発見・再評価することで、各地域市民のシビックプライドを取り戻すべく日南市歴史文化基本構想を策定した。地域の個性を「見つける（再発見）、学ぶ（再評価）」ことで文化遺産を守るための保存や復興の取組みが進められるよう市民と行政の役割分担を明示した上で、それぞれが主体的な活動を担う。

### 観光拠点形成の方向性

- ・ 利活用を前提に継承と集客を両立
- ・ 体験を絡めた滞在型まちづくり
- ・ 観光消費額増加に寄与する業態へ
- ・ 地域文化のHUB機能を構築

### 観光に関する課題

- ・ 地区住民の高齢化
- ・ 空き家の急増
- ・ 飫肥城由緒施設入館者数の激減
- ・ 城下町周辺の文化遺産の未活用

## 事業概要

### 文化財と利活用情報を網羅した飫肥の情報発信整備事業

飫肥地区の歴史や観光情報、飫肥のまちづくりプロジェクトについて情報を発信するサイトの多言語化（英語）を実施し、飫肥の魅力や情報を広く発信した。

■KPI 開設するHPのアクセス数(月間):  
300件(H29)→1,000件(R1)

### 情報発信



### 「飫肥学」の開催

飫肥の歴史を正しく理解した上で、まちなみ再生や文化財等を活用したまちづくりを促進し、飫肥地区全体の活性化につなげるとともに、飫肥地区の人材育成の一助とするため、地域の住民や学生等を対象とした講演会を旧藩校である振徳堂で開催した。

■KPI 文化財催し、体験プラン、ツアー数:  
6回(H28)→30回(R1)

### 人材育成



### デンケン gastroノミー&マルシェ

今後飫肥城下で利活用される文化財をはじめとした歴史的建築物への出店者公募を継続的かつ効果的なものとするため、出店可能性のある事業者を集めるマルシェを実施した。また、gastroノミーでは、日南の食材を利用したフルコースを文化財にて提供することで特別な体験を創出。

■KPI 観光産業従事者数: 2,314人(H26)→2,500人(R1)

### 普及啓発



### デンケンアート

宮崎で活動する8組のアーティストの作品を歴史的な建物で展示するとともに公開制作を実施。新しい町歩きのリズムづくりとアートと文化財の融合を目指した。

■KPI 文化財催し、体験ツアー参加人数:  
11,600人(H28)→23,200人(R1)

### 普及啓発



## 成果

### ① 文化財が観光地形成における新しい役割を担うことの周知理解を促進

飫肥学については来場者の約73%が、デンケンマルシェでは93%が良かったと評価しており、文化財の利活用についての理解促進を図れた。

### ② 地域住民へのノウハウの継承

イベントの実施に関わっている地域住民へ、ユニークベニューのノウハウが継承され、持続可能な取り組みに向けた準備が始まった。